

第3章 防災啓発・教育活動

1. 平成27年度 あいぼう会活動報告

あいぼう会事務局 岩見麻子

1. 活動内容と年間スケジュール

平成27年度は、これまでの目的である「企業の災害に対する被害の軽減、復旧の迅速化」を継続し、月1回（原則毎月第4月曜）、愛知工業大学本山キャンパスにおいて開催した。防災セミナーと講演会・講習会・勉強会、防災サロン・ワークショップ、見学会を柱として積極的に活動し、災害に関する知識の修得、会員相互の交流、切磋琢磨をはかった。運営委員会および運営協議会を開催し、会の運営を審議しながら活動した。活動スケジュールを表1に示す。

表1 平成27年度あいぼう会の活動スケジュール

日期	例会	運営委員会	防災セミナー	防災サロン・WS	講演会 講習会 勉強会	総会 運営協議会	見学会	懇親会 忘年会
4月27日	○				○	○		○
5月25日		○	○	○				
6月22日		○	○	○				
7月27日							○	
8月24日		○	○	○				
9月28日		○	○	○				
10月26日					○			
11月16日		○	○	○				
12月21日							○	○
1月25日		○	○	○				
2月22日				○	○	○		
3月28日		○	○	○				○
合計回数	1	7	7	8	3	2	2	3

2. 例会

平成27年4月27日(月) 14:00~17:30

➤ 第1部：講演会

第1部では、あいぼう会会長（愛知工業大学 正木和明 教授）挨拶に続いて、三重大学大学院 准教授の川口淳氏により「南海トラフに備える ～地域圏大学と地方自治体の挑戦～」の講演が行われた。

➤ 第2部：平成27年度総会

第2部では、平成26年度活動および会計報告と平成27年度活動方針および予算案、平成27年度防災サロン・ワークショップについて説明が行われた。防災サロン・ワークショップの説明では、防災サロン：石井計義班長が「南海トラフ巨大地震」、第4WS：早川澄男班長が「防災備蓄品」、第5WS：小池則満班長が「企画・成果展開」

について説明した。最後に、早川澄男運営副委員長より閉会の辞が述べられて、総会は終了した。

3. 講演会・勉強会・講習会

- ▶平成27年度講演会（通算第5回）：平成27年4月27日(月) 14：00～15：40
講 師：川口淳 氏（三重大学大学院 工学研究科 准教授）
テーマ：南海トラフに備える ～地域圏大学と地方自治体の挑戦～
- ▶平成26年度講習会（通算第8回）：平成27年10月26日(月) 10：00～12：00
講 師：豊田市消防本部 中消防署消防2課
テーマ：地震対応実技研修
- ▶平成26年度勉強会（通算第14回）：平成27年2月22日(月) 14：00～15：30
講 師：大西喜隆 氏（大府市役所 生活安全課 危機管理室）
テーマ：避難所運営訓練



写真1 平成27年度講演会ポスター



写真2 第5回講演会の様子



写真3 第8回講習会の様子



写真4 第14回勉強会の様子

4. 見学会

- ▶平成27年度第1回（通算第18回）：平成27年7月27日(月) 13：30～16：00
豊田自動織機 大府工場を訪問し、同工場安全総務部防災グループの鈴木氏から防災の組織や体制、活動の概要について説明を受けた後、救急資機材や毛布、食糧などの備蓄品や防災倉庫の設備などを見学した。

▶平成26年度第2回（通算第19回）：平成27年12月21日(月) 14：00～16：00

名古屋地方気象台を訪問し、防災グループの青山氏から天気予報の仕組みや観測機器、特別警報、特別警報発令までの流れについてなど説明を受けた後、施設や屋外に設置されている観測機器を見学した。



写真5 第19回見学会（防災倉庫）



写真6 第19回見学会（防災掲示板）



写真7 第20回見学会（青山氏から説明）



写真8 第20回見学会の様子

5. 防災セミナー

防災に関わる各分野の専門家に依頼して、東日本大震災や南海トラフの巨大地震に関連する防災トピックスについてのセミナーを開催した。

平成27年度第1回（通算第27回）：平成27年5月25日

講師：横田崇氏（愛知工業大学 教授）

テーマ：南海トラフの地震・津波対策について

平成27年度第2回（通算第28回）：平成27年6月22日

講師：鈴木康弘氏（名古屋大学 減災連携研究センター 研究連携部門 教授）

テーマ：レジリエントな社会づくりとハザードマップ

平成27年度第3回（通算第29回）：平成27年8月24日

講師：中村好宏氏（西日本電信電話株式会社 東海事業本部 設備部 災害対策室長）

テーマ：東日本大震災を教訓とした災害対策への取り組み

平成27年度第4回（通算第30回）：平成27年9月28日

講師：龍田成人氏（認定NPO法人 名古屋NGOセンター 常任理事）

テーマ：ネパール地震被害状況と防災、減災

平成27年度第5回（通算第31回）：平成27年11月16日

講師：鷺見哲也氏（大同大学 工学部 准教授）

テーマ：豪雨災害に備える河川水文情報との向き合い方

平成27年度第6回（通算第32回）：平成28年1月25日

講師：鎌田亮氏（総務省東海総合通信局 防災対策推進室長）

テーマ：防災対策 一国の役割とICT利用の最新情報

平成27年度第7回（通算第33回）：平成28年3月28日

講師：正木和明氏（愛知工業大学 地域防災研究センター センター長）

テーマ：海外での研究生活で学んだ自然災害

6. 防災サロン・ワークショップ

防災サロンは、「南海トラフ巨大地震」というサブタイトルを設け、防災セミナーの講師の方を交えて意見交換会を実施した。第4WSは「防災備蓄品」をテーマに、最新の防災備品の情報収集や会員企業の備蓄品の現状調査などを実施した。第5WSは「企画・成果展開」をテーマに、防災力検定のシステム改良や防災事例集のリニューアルに取り組んだ。

平成27年度第1回（通算第51回）：平成27年5月25日

平成27年度第2回（通算第52回）：平成27年6月22日

平成27年度第3回（通算第53回）：平成27年8月24日

平成27年度第4回（通算第54回）：平成27年9月28日

平成27年度第5回（通算第55回）：平成27年11月16日

平成27年度第6回（通算第56回）：平成27年12月21日（中間発表会）

平成27年度第7回（通算第57回）：平成28年1月25日

平成27年度第8回（通算第58回）：平成28年2月22日（最終報告会）

平成27年度第9回（通算第59回）：平成28年3月28日

7. 運営委員会

これまで通り、月に1回のペースで運営委員会を開催した。

平成27年度第1回（通算第77回）：平成27年5月25日

平成27年度第2回（通算第78回）：平成27年6月22日

平成27年度第3回（通算第79回）：平成27年8月24日

平成27年度第4回（通算第80回）：平成27年9月28日

平成27年度第5回（通算第81回）：平成27年11月16日

平成27年度第6回（通算第82回）：平成28年1月25日

平成27年度第7回（通算第83回）：平成28年3月28日

8. 運営協議会

平成27年度運営協議会（通算第6回）：平成28年2月22日

運営協議会にて、平成27年度活動報告および平成28年度活動方針の発表を行った。また、活動に関する外部評価を、次の方々（ご所属のみ、50音順）に実施していただいた。

【専門委員ご所属】

一般社団法人 中部経済連合会、東邦ガス株式会社、名古屋商工会議所

【アドバイザーご所属】

愛知県庁、大府市役所、幸田町役場、豊田市役所

9. 防災まちづくり大賞 消防庁長官賞受賞

企業を中心としたあいぼう会の継続的な取り組みが高く評価され、第20回防災まちづくり大賞 消防庁長官賞を受賞した。同賞の表彰式は2016年3月4日、都市センターホテルで開催され、正木会長と内藤運営事務局長、小池事務局長が出席した。



写真9 防災まちづくり大賞表彰式



写真10 賞牌

2. 平成27年度社会人防災マイスター養成講座

講座責任者 正木和明

1. 講座概要

中部圏は日本のものづくりの中核地域であると同時に、東南海地震などの大地震が警戒されている地域でもある。社会人防災マイスター養成講座は、企業の防災担当者を主な対象に、非常時にリーダーとして活躍できる人材を養成して、企業や地域が不幸にして被災した場合でも速やかに活動を再開できるようにすることを目的としている。

愛知工業大学を中心として、連携校である名古屋工業大学、大同大学、豊田工業高等専門学校の教員が参加して平成21年10月に開講した。

2. 27年度カリキュラム

本講座は1年間の課程として、半期3科目（年間6科目）を受講することとしている。各科目は90分授業を15回行うため、年間で135時間の授業を開講することになる。学校教育法に基づき120時間以上の授業を受講した履修生は本学より「履修証明書」が交付される。

対象者を社会人としているため、授業はeラーニングを中心として便宜を図るようにしているが、マイスターとして指導力を発揮するための問題解決能力、コミュニケーション能力を育成するため、各履修生は個人・グループの研究発表を最終授業で行うこととしている。また、授業のレベルは概ね学部上級生から大学院修士課程程度を目安としている。

平成27年度入学者に対する講義科目と担当教員を表1に示す。現在までの新入生数を表2に示す。

表1 科目と担当教員

開講期	授業科目	担当教員
秋季	防災学概論	正木
	建築防災論	岡田、内藤（総合資格）
	防災リテラシー	倉橋（㈱エーアイシステムサービス）、落合（㈱ファルコン）
春季	企業防災論	建部、渡辺（名工大）
	地域防災論	小池、鷺見（大同大）、早川（あいち防災リーダー会）
	防災フィールドワーク	今井（Gフレクション）
全期	特別研究	正木（コーディネーター）他全教員

3. 26年度秋季履修生

履修生には正規の6科目履修の他に、特別研究が課せられている。特別研究は大学における卒業研究に対応している。平成26年10月入学の秋季履修生は1年間の特別研究の成果を、平成27年7月に、先生方、履修生の前で発表した。過去の履修生も聴講に駆けつけてくれた。発表の後は修了生を囲んで懇親会が持たれた。修了生のネットワークの良さが示された。

表2 26年度秋入学履修生の特別研究テーマ

No	学籍番号	名前	特別研究テーマ
1	G14551	加藤 則正	自社の防災対策
2	G14552	加藤 久人	家庭の防災とBCP対策
3	G14554	田口 裕規	犠牲になるのは避難弱者 誰が救済の手を差し伸べるのか ～災害に強い介護福祉施設を目指して～
4	G14555	野村 昭男	東山 絆防災運動会
5	G14556	藤野 祐貴	社内防災訓練の見直し
6	G14557	水木 智臣	災害時の自助力向上にむけた提言とハザードマップの危険性評価
7	G14558	宮本 雅行	遠隔地で利用できる地震通報システムを考える

4. 27年度秋季入学生

平成27年10月6日に入学式を本山キャンパスで開催した。受講生は7名であり、内訳は、教職(2名)、建設業(3名)、コンサル(2名)、製造業(1名)である。平成28年3月で半期が終了し、平成28年7月に卒業予定である。

表3 累計履修生数

入学季	21年秋季	22年春季	22年秋季	23年秋季	24年秋季	25年秋季	26年秋季	27年秋季
履修生数	10	10	9	10	9	9	8	7

図1 平成27年度秋季募集用チラシ



写真1 26年度優秀賞の水木さん



写真2 26年度修了式

3. 学校防災シンポジウム2016 マップからはじまる学校防災 ～小中学校と研究者のコラボレーション～

文責：小池則満

学校防災についての様々な活動について発表・紹介し、今後のあり方について考えることを目的としたシンポジウムを開催した。愛知工業大学の主催、岐阜聖徳学園大学による共催、そして特定非営利法人ドゥチュウブの協力を得て、実施した。

開催日時：

2016年2月27日(土) 13:00～16:30 (開場 12:30)

場所：愛知工業大学 八草キャンパス 1号館3階301教室

◆プログラム

開会の挨拶

正木和明 (愛知工業大学地域防災研究センター センター長)

開催趣旨の説明

小池則満 (愛知工業大学工学部 准教授)

【第一部 活動事例】

「地域とともに歩む防災活動ー中山間地における小規模校を事例としてー」

近藤嗣郎 (愛知県岡崎市立常磐東小学校 校長)

「体験し、発信する防災教育」

土松俊幸 (岐阜県中津川市立坂本中学校 校長)

「自ら考える中学校防災キャンプ」

岩谷智明 (愛知県豊田市立藤岡南中学校 教諭)

「元城小学校の減災活動ー洪水対応事例ー」

深津幸春 (愛知県豊田市立元城小学校 校長)

「中学校社会科における防災学習」

権田与志道 (長野県阿智村立阿智中学校 教諭)

【第二部 研究事例】

「長野県内小中学校における防災教育ー長野県実践的防災総合支援事業の取り組みー」

廣内大助 (信州大学教育学部 教授)

「大学生から子どもたちに伝える防災教育」

清水博美・高山美雪 (愛知工業大学工学部 4年)

「集団避難行動の可視化に関する研究ー元城小学校避難訓練を事例にー」

岩見麻子 (愛知工業大学地域防災研究センター PD研究員) 「大学の帰宅困難者対策に関する研究ー愛知工業大学を事例にー」

森田匡俊 (岐阜聖徳学園大学教育学部 専任講師)

「学校防災に役立つ情報ツール」

落合鋭充 (株式会社ファルコン プロジェクトリーダー)

【第三部 パネルディスカッション「はじめての学校防災」】

コーディネーター 小池則満（愛知工業大学工学部 准教授）

パネリスト 古瀬勇一（特定非営利活動法人ドゥチュウブ 理事）

事例発表者 11名

閉会の挨拶

柏木良明（岐阜聖徳学園大学教育学部 学部長）

参加人数：約130名

概要： 防災に関係する業務に携わる方、防災ボランティア、学校の教職員、学生等、多くの皆さまにご来場いただけた。参加者アンケートから、特に各学校の取り組みについて具体的に知ることができたことに対して評価する声を多数いただいた。一方で、発表・討論の時間が短いという指摘も多くいただいた。参加者の皆さまの熱意に応えられるように、今後も学校防災に関わる皆さまとの情報交換の場を作っていくことが大切と考える。



写真 会場の様子

当日、ご登壇いただいた皆さま、参加いただいた皆さまに心より御礼申し上げます。

4. 緊急地震速報を活用した「第10回防災訓練」の実施

センター長 正木和明

本学は全国の大学に先駆けて緊急地震速報を活用した防災訓練を実施している。訓練は年に一度、秋季に実施されている。当初は大学のみの参加であったが、その後、学園全体へと拡大した。平成27年度は10回目となり、以下の要領で実施された。あいちシェイクアウト2015訓練に参加登録した。

想定地震：東海・東南海連動地震（M8.5、震央距離140km）

猶予時間：40秒

予想震度：6弱

緊急放送：緊急地震速報を受信すると自動的に放送設備が起動し、サイレンが2度鳴り、続いて「地震が来ます」の放送が繰り返される。

退避行動：学生は机の下に身を隠す、実験機械から退避する等の行動をとる。

避難行動：センター長がマイクで「揺れが収まりました」と放送し、避難広場（サッカー場）へ避難が開始される。

○八草キャンパスにおける訓練実績

11：51 地域防災研究センターに対策本部設置（学長以下の本部員が参集）。

11：51 2号館前広場に救護所設置

11：56 新館建設現場崩落 新2号館北側一部通行不可

11：56 みらい工房火災 12：04 消火

12：02 1号館カフェ店火災 12：18 消火

12：04 新2号館 意識不明者発見、救急車手配

12：09 AITプラザ火災 12：20 鎮火

12：27 安否確認終了、解散

12：31 対策本部解散

○参加者：大学 学生 2,784名、教職員 36名（避難広場のみ）、学外者41名

専門学校 学生 155名、教職員 20名

高校 生徒 1,850名、教職員 113名

中学 生徒 337名、教職員 28名

○学外からの見学者：愛知学院大学、大同大学、豊橋創造大学、名古屋市立大学、南山大学瀬戸キャンパス、名古屋大学、藤田保健衛生大学、修文大学、町内会（瀬戸市民）
訓練開始に先立ち11：00～11：20に見学者に対して説明会を実施、訓練終了後12：40～13：00に質疑応答会を実施した。



写真1 対策本部（センター内に設置）



写真2 避難場所での安否確認

5. あいちシェイクアウト訓練

服部亜由未・岩見麻子・落合鋭充・倉橋奨・中村栄治・正木和明

1. 概要

あいちシェイクアウト訓練は愛知県防災会議が主唱し、愛知県が主催した防災訓練である。平成27（2015）年9月1日（火）正午の時報を合図に、愛知県下で一斉に「あいちシェイクアウト訓練」が実施された。シェイクアウト訓練は、地震から身を守る安全行動として、「1. しせいをひくく、2. あたまをまもり、3. じっとする」1分間の防災訓練である。平成27年度の訓練には、348,698名がウェブサイトなどを通じて登録をおこない、訓練に参加した。

地域防災研究センターは、愛知県からの依頼により、愛知工業大学、あいぼう会、(株)エーアイシステムサービス、(株)ファルコン、シェイクアウト提唱会議らと共に「あいちシェイクアウト訓練実行委員会」のメンバーとして、訓練の実施に協力した。具体的な協力内容は、昨年度に引続き、ウェブサイト作成運営、ポスターおよびリーフレットの作成を行った。以下、愛知県と共に本年度行なったあいちシェイクアウト訓練実績について報告する。

2. 本年度実績について

2.1 参加表明者数実績

本年度における参加表明実績を前年度実績とともに以下の表に示す。本年度については、学校及び企業の参加表明件数・表明数が増加した一方、そのほかの個人や家族等の団体及び行政については、件数・表明数がともに減少となった。尚、全体としては前年度より約1万人の参加表明者数増となった。

表1 参加表明数（前年度比較）

種別	前年度実績		今年度実績	
	件数	参加表明者数	件数	参加表明者数
個人	51	51	34	34
家族	33	161	24	96
サークル・知人・友人等	4	39	0	0
NPO・自主防災組織等	20	4,235	17	1,881
学校	210	104,489	230	118,119
企業	79	14,741	109	29,345
行政	244	212,562	211	198,141
その他	22	1,267	16	1,082
合計	663	337,536	641	348,698

2.2 参加表明者数の推移

本年度を含め、3年間の参加表明者数の推移を以下の表に示す。

表2 参加表明数推移（過去3年）

年度	受付期間	目標数	実績数	増加数	対前年比
25年度	7/16～8/31	150,000	261,702	-	-
26年度	6/25～8/31	500,000	337,536	75,834	+29%
27年度	6/29～8/31	500,000	348,698	11,162	+3%

2.3 ふりかえりシートの投稿結果

本年度のふりかえりシート投稿実績を前年度実績とともに以下の表に示す。本年度は昨年度に比べ学校からの投稿が多く、全体として投稿団体数・件数ともに増加となった。ある小学校では92件の投稿があり、学校全体での取組みが伺える。

表3 ふりかえりシート投稿団体数及び投稿数（前年度比較）

公開／非公開	種別	26年度実績		27年度実績	
		投稿団体数	投稿数	投稿団体数	投稿数
公開可	学校	3	15	14	109
	企業	1	1	5	5
	行政	1	1	1	1
	他団体	3	3	1	1
公開不可	学校	1	1	-	2
	行政	-	-	1	1
合計		9	21	22	119

2.4 ふりかえりシートの掲示

本年度投稿されたふりかえりシートについては、以下の期間・場所に掲示した。

表4 ふりかえりシート掲示期間及び場所

期間	場所
平成27年9月1日～9月14日	県庁地下通路
平成27年11月9日～11月20日	尾張県民相談室、知多県民相談室
平成27年12月21日～平成28年1月7日	県庁地下通路
平成28年1月8日～1月19日	東三河県民相談室
平成28年1月19日～2月1日	西三川県民相談室



3. 今後の課題

参加表明者数については、昨年度に比べ微増となった。中でも学校の参加表明数が増えており、小中学校における避難訓練の一環として、あいちシェイクアウトが浸透してきていることが伺える。一方、個人、家族、サークル等の参加団体数は昨年度より減少しているが、9月1日が平日だったことも原因として考えられる。

全体の割合としては企業の参加表明者数は学校・行政に比べ少なく、企業の行う防災訓練での組み込み方等の提案が重要となる。

また、システム的には同一団体からの複数登録が数件あったため、来年度以降では同一団体からの複数登録に対し、どのような対応をしていくかを検討する必要がある。

6. オープンカレッジ「地域防災研究センター講座」の開催

正木和明

愛知工業大学は市民を対象とした「オープンカレッジ」を開催している。カレッジには年間80程度の講座が開講されている。講座は、語学、教養、健康等の他に、本学の先生方が担当する講座がある。ロボット作成、機械作成、絵画、天文から釣り教室まで多彩である。開講回数は3～9回、1回の講義時間は1時間半と大学と同じである。受講料は1回1,000円程度である。

地域防災研究センター講座は、本学の地域貢献プロジェクトの一環に位置づけられ、受講料無料という特権が与えられている。その為か受講者は60名の定員にほぼ達する人気講座である。聴講者の性別は男性80%、女性20%、年齢は60歳以下40%、以上60%である。ご夫婦で参加されるケースもある。卒業生や、防災マイスター養成講座履修生、あいぼう会会員などの参加も多い。内容は必ずしも防災にこだわらず、自然界の仕組み、災害の歴史、他の分野との関連、人物誌など多彩に盛り込んでいくことをこころがけている。

講座は春季3回、秋季3回開催され、春季、秋季ごとにテーマを設定し、3回シリーズものとして話題を提供している。本年度のテーマは以下の通りである。

○平成27（2015）年度 春季講座

講師：正木和明 地域防災研究センター長

会場：愛知工業大学本山キャンパス

内容：「私の出会った魅力的な地震学～我が家の地震被害を予測する～」

地震災害ばかりを考えていると思わぬ災害が起きている事に気が付きません。今回は、過去の事例をもとに想定外の災害について考えてみたいと思います。

第1回 5月16日(土) 10:30～12:00：津波・噴火・隕石衝突を考える

第2回 6月13日(土) 10:30～12:00：崖くずれ・地すべり・土石流を考える

第3回 7月25日(土) 10:30～12:00：酸性雨・温暖化・オゾン層破壊を考える

○平成27（2015）年度 秋季講座

講師：正木和明 地域防災研究センター長

会場：愛知工業大学本山キャンパス

内容：「私の出会った魅力的な地震学～日本の地下で何が起きているのか～」

東日本大震災以降何か変？と思っている方が多いと思います。私もおかしいと思います。地震・噴火、何が起きているのでしょうか？考えてみましょう。

第1回 10月24日(土) 10:30～12:00：3.11地震で何が変わったのか？

第2回 11月28日(土) 10:30～12:00：火山噴火はどうして連動するのか？

第3回 12月12日(土) 10:30～12:00：日本沈没が起きるのか？



写真1 27年度春季講座パワポ資料のタイトル

7. 瀬戸消防出初式への出展

正木和明・奥川雅之

瀬戸市役所及び瀬戸消防本部とはこれまで地域連携活動を推進してきた。その一環として平成28年1月10日10時～12時にわたって行われた瀬戸消防本部主催の出初式に今年度も出展した。会場には、模擬消火器による消火訓練、AED講習、防火ポスター・書き初め展示等とともに、奥川研究室の学生6名が災害救助ロボット操作訓練を出展した。約2m四方の木枠の中に、災害現場を模した広場をつくり、リモコン式の子供向けロボット（キャタピラー装備付きの車両）3台を設置した。学生たちの指導でロボット操作方法を体験した。スタート地点を出発し、途中の障害物を越え、カーブを曲がってゴールに到着するコースを約3～8分かけて攻略するゲームである。兄弟、姉妹、お母さん、お父さんと一緒になって楽しむ訓練である。毎年の出展であるが、益々好評で、出初式が終わっても、待ち行列が途絶えないほどである。来年度出展も早速依頼された。

出展に当たっては瀬戸消防本部の方々に多大な支援をいただいた事を付す。



写真1 出展ゾーンの様子



写真2 災害ロボット操作体験

8. とよた交通安全・防災フェスタに参加・出展

小池則満・奥川雅之・鳥居一平・服部亜由未・岩見麻子
落合鋭充・小穴久仁・正木和明

豊田市と愛知工業大学の包括連携協定に基づき、「とよた交通安全・防災フェスタ」に地域防災研究センターに関わる3研究室が、エアアイシステムサービス、NPO法人DoChubuと共同で出展した。なお、服部、岩見研究員が実行委員会に加わり、実施内容等について年間を通じて討議に参加した。

開催日時：2015年5月17日（日） 9：30-16：30

場 所：スカイホール豊田（豊田市総合体育館）

参加研究室および展示内容：

メディア情報研究室（情報科学科 鳥居一平教授）

南海トラフ地震災害シミュレーションの展示

知能機械システム工学研究室（機械学科 奥川雅之准教授）

レスキューロボットの展示と操縦体験コーナー

計画研究室（土木工学科 小池則満准教授）

防災マップの展示、防災クイズコーナー

参加人数：500名以上（防災クイズコーナーにて愛工大断層せんべい配布、14時の時点で500枚を配布終了）

概 要：非常に多くの方、特に親子連れの皆さんに足をとめていただき、防災に関するクイズや被害想定、レスキューロボットのデモンストレーションなどをご覧いただきました。前日の機材搬入、展示ブースの運用、展示会終了後の片付けと大学までの輸送・片付け等にはそれぞれの研究室の学生も参加した。



ブースの概要（左：親子連れに賑わう 右：ブースの配置）

9. 地域防災研究センター見学会

センター見学会では、地震防災・減災を中心とした講義や緊急地震速報のデモンストレーションなどを行っております。

平成27年度は、自治会など地域ボランティアの方々や11組320名、企業3組41名、中学生3組120名、高校生5組187名、教員1組44名、海外の大学から1組12名、その他2組122名、合計26組846名と たくさんの方々にお越しいただきました。



10. 備蓄氷糖作製

正木和明

名古屋市の中川区にある中日本氷糖株式会社は氷砂糖の生産において全国の55～60%のシェアを占める。ある日、専務さんが当センターを訪れられた。氷砂糖の販売量は近年の砂糖の取りすぎに対する拒否反応から低下傾向にあり、新たな販売市場を探しているが、備蓄品として活用できないか、との相談であった。氷砂糖は備蓄品として優れている、とのことであった。

まず、賞味期限がない。原料であり食品ではないためである。真夏に車のボンネットに置いておいてもベタつかない。一粒2グラムで約20カロリーある。味は甘すぎない。舐めると唾が出てくるので、喉が渴いたとき舐めるとよい。このように優れた氷砂糖は、登山家や海外に派遣された自衛隊などが良く持参している。実際、自衛隊駐屯地の販売部では氷砂糖を売っている。

避難所の備蓄品としても優れている。高齢の人は喉が渴いた時、トイレを気にして水を飲まない傾向がある。氷砂糖を舐めると唾が出てきて喉の渴きを潤すことができる。乾パンなどの食材はパサパサして食べにくい、氷砂糖と一緒に食すと唾が出てきて楽に食べることができる。実際小粒の氷砂糖のかけらを混ぜたパンも販売されている。備蓄量以上の人が避難して来たときは配布が難しいが氷砂糖は小粒で多数箱に入れておけば人数に関係なく配布できる。日本赤十字病院の先生に聞くと「まず、舐めることで避難所が和みます。エネルギーも補給できます。何より口を動かすことは健康維持に良い事です」とのことであった。さらに、原価が安い点が魅力的である。スーパーやコンビニで梅酒用に1kg400円程度で販売されている。また、500個で2kgしかなく、緊急時にA4サイズの箱に詰めて容易に運送できる点も備蓄品として優れている。

以上のような検討を経て、災害備蓄用氷砂糖を商品化する事に決定した。製品の名前は、ずばり「備蓄氷糖」とした。袋のデザインは、緊急時をイメージして黄地に黒のストライプとし、黒字で備蓄氷糖と書かれている。土木工学科防災工学専攻受験生募集用パンフレットが黄地に黒字で書かれていたがそれにヒントを得た。また、工事用注意板等もイメージした。

平成28年3月に製品が完成し販売を開始した。自治体や企業からの購入、予約が始まった。備蓄用ばかりでなく、避難訓練、防災講演会などに配布し、防災意識の向上に活用される可能性もある。



写真1 氷砂糖結晶（グラニュー糖）



写真2 既存の製品（上）と備蓄氷糖（下）

11. 内海山海防災連絡協議会避難訓練

正木和明

平成27年11月29日、内海山海防災連絡協議会の主催で、津波避難訓練（1次訓練）、防災訓練（2次訓練）が実施された。1次訓練は、緊急地震速報による津波警報が同報無線から発報され住民が津波避難場所まで家族で避難行動を起こす訓練である。写真1、2は避難場所における住民受け入れの準備状況である。8か所の避難場所はあらかじめ決められており、連絡員があらかじめ受け入れ態勢を準備していた。参加者は17地区から841人が参加した（地域の全住民の15%）。家族全員が一緒に避難行動を起こした。避難はスムーズに行われた。

津波避難訓練終了後、内海小学校体育館において130名が参加して防災訓練が実施された。130名は3つのグループに分かれ、消火訓練、煙訓練、炊き出し訓練の3科目をローテーションを組み実施した。写真3は消火器訓練、写真4は炊き出し訓練の様子である。炊き出しは、米とさんまの缶詰を（写真5）、ビニール袋に入れて熱いお湯に入れて炊き上げる（写真6）訓練である。写真7は災害用緊急トイレ組立訓練、写真8は簡易テント組立訓練の様子である。

訓練後、愛知県防災局より避難所運営の講座があった。その後、センター長が防災訓練の講評を行って訓練を終了した。



写真1 避難場所準備



写真2 避難場所受付の様子



写真3 消火訓練



写真4 炊き出し訓練



写真5 炊き出し材料



写真6 さんま味ごはん

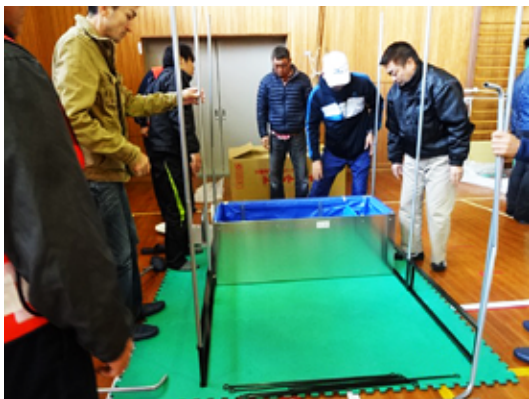


写真7 簡易トイレ組立訓練



写真8 簡易テント組立訓練

各種実績一覧

■講演会等リスト

正木和明

- ・愛知工業大学オープンカレッジ地域防災センター講座,「我が家の地震被害を予測する」,愛知工業大学本山キャンパス, 2015年5月16日, 6月13日, 7月25日
- ・北区生涯学習センター27年度前期主催講座,「知っておきたい!災害に対する基礎知識」, 2015年6月10日
- ・夢ナビライブ2015 in Nagoya,「地震に強い街づくり」,名古屋国際展示場, 2015年7月18日
- ・教員免許更新講習,「先生と生徒のための防災教育」,愛知工業大学八草キャンパス, 2015年8月19日
- ・愛知県消防学校中級幹部科講義,「地震シナリオ」,愛知県消防学校, 2015年8月25日
- ・愛知工業大学オープンカレッジ地域防災センター講座,「日本の地下で何が起きているのか」,愛知工業大学八草キャンパス, 2015年10月24日, 11月28日, 12月12日
- ・中部TLOセミナー,「地震等の防災・BCPに関する地域・企業のネットワークづくりの提案」,名古屋大学, 2015年10月28日
- ・犬西フェスティバル親子で楽しく地球の自然と防災講演会,「内陸地震と南海巨大トラフ地震」,犬山西小学校, 2015年12月12日
- ・消防職員を対象とした地震防災に関する講義,「地震について」,豊田市中消防署, 2015年12月12日

横田崇

- ・あいぼう会,「南海トラフの地震・津波対策について」,愛知工業大学本山校舎, 2015年5月25日
- ・環境防災研究機構講演会,「地震津波災害から命をまもるために」,スクワール麴町, 2015年7月1日
- ・川崎市民アカデミー環境とみどり講座「持続可能な社会と環境保全・防災」,「巨大地震は起こるのか?」,川崎市生涯学習プラザ, 2015年7月16日
- ・平成27年度岡田賞講演会,「災害情報のこれまで、そして今後 -気象庁での取り組みを振り返って-」,一般財団法人日本気象協会本社, 2015年9月28日・緊急地震速報講演会,「地震・津波災害から命をまもるために」,高知県立県民文化ホール, 2015年10月26日
- ・名古屋駅前地区防火・防災管理協議会防災講演会,「懸念される巨大地震とその対策」,名古屋ダイヤビルディング, 2015年11月5日
- ・南知多町防災リーダー養成講座,「地域での災害リスク」,南知多町役場, 2015年11月7日
- ・名古屋大学防災セミナー,「国の防災対策とその地震・津波像について」,名古屋大学減災連携研究センター, 2016年1月20日
- ・火山温泉観光サミット2016in箱根,「観光地における火山噴火警戒レベルとの向き合い方」,湯本富士屋ホテル, 2016年3月3日

入倉孝次郎

- ・Joint Workshop on OSAKA-ALMATY EARTHQUAKE PROBLEM, Keynote Topic, "Review on Simulation of Ground Motion by specified Fault, Path, and Site", Osaka, September 9, 2015.
- ・Memorial conference 30 year after the 1985 Michoacan earthquake, "Broadband ground motion simulations of mega-thrust subduction earthquakes based on multi-scale heterogeneous-source model", Mexico City,

September 17-19, 2015

- ・ Best Practices in Physics-based Fault Rupture Models for Seismic Hazard Assessment of Nuclear Installations , "Current practice of simulation technique for design basis ground motions for nuclear installations in Japan" Vienna, Austria, November 18-20, 2015

建部謙治

- ・ NPO法人新現役ネット, シニア世代の“防災”を考える, 再検討を要する津波対策, 名古屋国際開発センター, 2015年11月20日
- ・ 第13回豊田地震対策事業者連絡会, 防災カルテによる豊田市企業の防災力診断, 豊田市保見交流館, 2015年11月13日
- ・ 日本防火技術者協会 名古屋防火研修会, 高齢者施設の夜間の火災安全確保について考える, 名古屋市昭和消防署, 2015年10月26日
- ・ NPO法人新現役ネット, シニア世代の“防災”を考える 火災安全対策, 再検討～急務の福祉施設防火対策!～, 名古屋国際開発センター, 2015年9月18日
- ・ NPO法人新現役ネット, シニア世代の“防災”を考える 災害に遭遇したら・・・～若者とはちがう身体反応!～, 名古屋国際開発センター, 2015年6月25日
- ・ 東海金亀会, 高齢者と災害, 名古屋国際ホテル, 2015年6月21日
- ・ 日本防火技術者協会 米沢防火研修会, 高齢者施設の夜間の火災安全確保について考える, 米沢市健やかセンター, 2015年5月16日

中村栄治

- ・ 高密度点群データを活用した地下街に向けた店舗位置情報提供の試み, FARO, Asia Pacific 3D User Conference 2015, 東京, 2015年6月

小池則満

- ・ NPO法人ドゥチュウブつながるマップ研究会, 「学校における防災マップづくりと地域への展開」, imyホール, 2015年6月18日
- ・ 日本都市計画学会避難訓練学の提唱と社会的実装に関する研究委員会 「海から目線の防災～南伊勢町海上避難マップ作成に向けて～」, 伊勢外湾漁業協同組合, 2015年8月4日
- ・ 建設コンサルタンツ協会中部支部河川委員会, 「低頻度災害に対する避難のあり方～学校教育での取り組みを通じて～」 建設コンサルタンツ協会中部支部, 2015年11月5日
- ・ 愛知工業大学テクノサロン 「企業防災力向上に向けた愛工大の取り組み～あいぼう会活動を通じて～」, 愛知工業大学総合技術研究所, 2015年12月8日
- ・ 日本都市計画学会避難訓練学の提唱と社会的実装に関する研究委員会, 「海から目線の防災～南伊勢町海上避難マップ 完成&これから～」, 伊勢外湾漁業協同組合, 2016年3月1日

奥川雅之

- ・ レスキューロボットコンテスト競技会予選 特別講演, 「ジャパンバーチャルロボティクスチャレンジの目指すもの」, 東京都立産業技術高専荒川キャンパス, 2015年7月5日

廣内大助

- ・信州大学出前講座（中野市防火管理協議会）、「活断層大地震に備える」、中野市民会館、2015年5月22日
- ・JR東日本労組防災フォーラム（JR東日本労組長野）、「過去の災害から学ぶ－長野県の災害にどう備えるか」、NBSホール、2015年6月6日
- ・信州大学出前講座（伊那市まほらいな市民大学）、「活断層大地震に備える」、伊那市生涯学習センター、2015年6月26日
- ・信州大学出前講座（長野市朝陽地区住民自治協議会）、「災害図上訓練DIGを体験しよう」、朝陽公民館、2015年7月7日
- ・松川村職員研修会、「ハザードマップを用いた災害図上訓練（DIG）の取り組み」、松川村役場、2015年7月16日
- ・信州大学出前講座（長野市第一～第五地区合同講演会）、「活断層大地震に備える」、長野市勤労者女性会館しなのき、2015年7月24日
- ・信州大学出前講座（更北地区住民自治協議会）、「2014年長野県神城断層地震と長野県の活断層」、更北公民館、2015年7月25日
- ・松川中学校教職員研修会、「東日本大震災から考える教育現場での取り組み」、松川村立松川中学校、2015年8月10日
- ・安曇野市市民大学講座、「2014年長野県神城断層地震と長野県の活断層」、穂高会館、2015年10月29日
- ・全国私学教育研究集会、「東日本大震災から考える学校防災の取り組み」、ホテル国際21、2015年10月30日
- ・信州大学出前講座（篠ノ井地区住民自治協議会）、「2014年長野県神城断層地震と長野県の活断層」、篠ノ井文化会館、2015年11月4日
- ・柵津小学校避難訓練講演、「いざという時のために何ができるのか?」、東御市立柵津小学校、2015年11月5日
- ・信州大学出前講座（三輪田町区「町民防災講演会」）、「活断層大地震に備える」、三輪田町公民館、2015年11月7日
- ・JR東日本労組防災・減災シンポジウム、「企業防災におけるハザードマップの活用」、白馬五竜エスカルプラザ、2015年11月14日
- ・穂高東中学校避難訓練講演、安曇野市立穂高東中学校、「いざという時のために何ができるのか?」、2015年11月17日
- ・信州大学出前講座（長野市第五地区防災講演会）、「洪水ハザードマップを用いた災害図上訓練（DIG）の取り組み」、中御所公民館、2015年11月21日
- ・長野県神城断層地震復興祈念行事、「神城断層地震を通じて明らかになったこと、今後の課題」、白馬村ウィング21、2015年11月22日
- ・信州大学出前講座（佐久市高齢者大学）、「歴史から見る海溝型巨大地震とその被害予測－東日本大震災の教訓は生かせるか」佐久市市民創錬センター、2015年12月2日
- ・野島断層普及講演会2016「日本と世界の活断層地震」、「2014年長野県北部の地震の地表地震断層」、北淡震災記念公園セミナーハウス、2016年1月11日
- ・マップからはじまる学校防災、「長野県内小・中学校における防災教育－長野県実践的防災教育総合支援事業の取り組み」、愛知工業大学、2016年2月27日
- ・信州大学出前講座、「2014年長野県神城断層地震と茅野市周辺の活断層」、茅野市公民館、2016年3月11日
- ・信州大学出前講座（長野中央ライオンズクラブ）、「2014年長野県神城断層地震と長野県の活断層」、ホテル国際21、2016年3月24日

森田匡俊

- ・東海地理研究会, 「GPSによる津波避難行動の分析」 中部学院大学, 2015年11月21日
- ・マップからはじまる学校防災～小中学校と研究者のコラボレーション～, 「大学の帰宅困難者対策に関する研究－愛知工業大学を事例に－」 愛知工業大学, 2016年2月27日

■TV出演・新聞記事リスト

正木和明

- ・「天変地異と神話」, 中部経済新聞, 2015年4月24日
- ・「東海湖に想いを馳せる」, 中部経済新聞, 2015年8月12日
- ・「ウスリー紀行」, 中部経済新聞, 2015年10月22日

小池則満

- ・「暮らしの防災 津波避難」, 名古屋テレビ UP! 2015年5月19日
- ・「ダム堆砂の活用～長期的視点で仕組みづくりを」, 中部経済新聞, 2015年6月23日
- ・「「防災観光」という視点～学び楽しむ新たな魅力発見へ」, 中部経済新聞, 2016年3月9日
- ・「海上津波避難マップー「陸」と「沖」即座に判断」, 読売新聞, 2016年3月24日
- ・「陸と沖合 避難先明確に」, 中日新聞, 2016年3月1日
- ・「海上避難マップ完成」, 伊勢新聞, 2016年3月1日
- ・「港か沖か 判断に指針」, 中日新聞, 2016年3月8日

奥川雅之

- ・ほっとイブニング (NHK総合), 2016年3月14日 (月) 18:10~19:00
- ・「災害調査ロボ開発 愛知工業大学 半径400m超探索」, 日刊工業新聞, 2015年1月28日
- ・「大学発 災害ロボ実用化へ 小回り利き操作も容易」, 朝日新聞朝刊, 2015年6月3日
- ・「開発進む 産学連携ロボ」, 日本経済新聞, 2015年6月30日
- ・「遠隔操作レスキューロボット「Scott」と社会貢献」, 朝日新聞朝刊, 2015年10月30日
- ・「遠隔操作レスキューロボット「Scott」と社会貢献」, 中日新聞朝刊, 2015年11月30日
- ・「遠隔操作レスキューロボット「Scott」と社会貢献」, AERA, No.28, 2015年6月29日

建部謙治

- ・「子どもと災害, 教員にも求められる災害対応能力, 定期研修が受けられる環境整備を」, 中部経済新聞, 2016年2月9日
- ・「子どもと災害, 学校の避難訓練に望む, シミュレータの疑似体験が必用」, 中部経済新聞, 2015年5月26日

小橋勉

- ・「チームづくりに向けて: 名作に学ぶ(2)」, 中部経済新聞, 2015年4月13日
- ・「市場とは何か(1): 組織デザイン研究からの知見」, 中部経済新聞, 2015年5月8日
- ・「ネットとリアルのビジネスの並行性: 「個客」対応の強化」, 中部経済新聞, 2015年6月2日

- ・「市場とは何か(2)：フロント－バック組織の意味」, 中部経済新聞, 2015年7月
- ・「市場とは何か(3)：市場の多面性」, 中部経済新聞, 2015年8月14日
- ・「事業の価値から市場を考える」, 中部経済新聞, 2015年9月9日
- ・「能力における多様性について」, 中部経済新聞, 2015年9月28日
- ・「組織再編について考える」, 中部経済新聞, 2015年10月7日
- ・「6つの帽子(1) 多様性の理解に向けて」, 中部経済新聞, 2015年11月16日
- ・「6つの帽子(2) 他者理解の深化へ」, 中部経済新聞, 2015年11月30日
- ・「労働組合の方向性と循環性」, 中部経済新聞, 2016年1月12日
- ・「コミュニケーション能力(1)」, 中部経済新聞, 2016年2月22日
- ・「コミュニケーション能力(2)」, 中部経済新聞, 2016年3月1日
- ・「“採用”めぐる曖昧さ」, 中部経済新聞, 2016年3月21日
- ・「多様性の中での採用・評価」, 中部経済新聞, 2016年3月24日
- ・「制御」時代の発想のあり方」, 中部経済新聞, 2016年3月31日

森田匡俊

- ・「GPS使い避難訓練」, 中日新聞, 2016年5月23日
- ・「児童の足で逃げるには 矢作川氾濫に備え豊田・元城小が模索」, 中日新聞, 2016年7月21日

■各種委員

正木和明

- ・大府市防災助言者
- ・瀬戸市防災会議委員
- ・南知多町防災専門委員
- ・安城市契約総合評価競争入札学識経験者
- ・公益財団岐阜県産業経済振興センター南海トラフ巨大地震亜炭鉱跡防災モデル事業基金事業亜炭鉱跡問題対策委員会委員長
- ・一般社団法人充填技術協会副理事

横田崇

- ・愛知県地震対策有識者懇談会委員
- ・災害情報学会副会長
- ・災害情報学会総務委員長
- ・災害情報学会理事

入倉孝次郎

- ・日本学術会議連携会員
- ・文部科学省地震調査推進本部専門委員
- ・内閣府南海トラフ巨大地震モデル検討会委員
- ・内閣府日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会委員

- ・内閣府相模トラフ沿いの巨大地震等による長周期地震動検討会委員
- ・文科省長周期地震動ハザードマップ作成等支援事業技術審査専門員
- ・IAEA（国際原子力機関）EBP-WA1議長
- ・IAEA（国際原子力機関）IASA ISSC科学委員会委員
- ・社団法人日本地震学会IASPEI委員会委員

建部謙治

- ・豊田市都市計画審議会委員
- ・日本インテリア学会東海副支部長

中村栄治

- ・大規模環境の3次元計測と認識・モデル化技術専門委員会委員（精密工学会）

小池則満

- ・日本都市計画学会 社会連携組織「避難訓練学の提唱および社会的実装に関する研究委員会」代表
- ・東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会 作業部会ファシリテーター

奥川雅之

- ・日本機械学会機械力学計測制御部門運営委員会委員
- ・計測自動制御学会システムインテグレーション部門レスキュー工学部会主査
- ・レスキューロボットコンテスト実行委員会副実行委員長
- ・レスキューロボットコンテストシーズ実行委員会副実行委員長
- ・一般社団法人アール・アンド・アールコミュニティー理事
- ・日本機械学会機械力学・計測制御部門「スマート構造システムの将来技術と実用化に関する研究会（A-TS10-40）」幹事
- ・日本機械学会機械力学・計測制御部門「診断とメンテナンス技術研究会（A-TS10-39）」委員
- ・計測自動制御学会「システムインテグレーション部門講演会」プログラム委員
- ・「ロボティクスシンポジウム」プログラム委員
- ・岐阜高専・各務原市連携事業ツアーガイドロボット開発推進委員会「ツアーガイドロボット開発プロジェクト」委員
- ・TPIPユーザーコミュニティ主査
- ・RoboCup Rescue Robot League Technical Committee Member

赤堀良介

- ・中部地方整備局水文観測高度化検討会 委員
- ・豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会 委員
- ・長久手市香流川整備計画推進委員会 委員
- ・国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所 庄内川リバーカウンセラー会議 リバーカウンセラー
- ・公益社団法人土木学会 調査研究部門 水工学委員会環境水理部会 オブザーバー

服部亜由未

- ・公益社団法人日本都市計画学会社会連携交流組織「避難訓練学の提唱および社会的実装に関する研究委員会」委員
- ・あいちシェイクアウト訓練実行委員会 実行委員（2015.9まで）
- ・とよた防災フェスタ実行委員会 実行委員（2015.9まで）
- ・歴史地理学会庶務委員（2015.5～現在）
- ・豊田市史執筆協力委員（近代）

岩見麻子

- ・とよた防災フェスタ実行委員
- ・あいちシェイクアウト訓練実行委員

廣内大助

- ・国土交通省国土地理院 活断層情報整備検討委員会委員
- ・国土交通省治水地形判定委員会委員
- ・日本地理学会災害対応委員会地域拠点委員
- ・日本第四紀学会古地震ネオテクトニクス研究委員会委員
- ・地球惑星科学連合教育問題検討委員会委員
- ・原子力規制委員会志賀原子力発電所敷地内破碎帯の調査に関する有識者委員
- ・NPO法人レスキューストックヤード有識者パートナー
- ・独立行政法人 産業技術総合研究所活断層・地震研究センター外来研究員
- ・新修豊田市史編さん執筆協力員（自然部会）
- ・名古屋市市政資料館調査協力員
- ・愛知工業大学地域防災研究センター 客員教授
- ・長野県地理学会幹事
- ・長野市防災基金運営委員会委員長
- ・長野県学校防災アドバイザー
- ・松川村防災アドバイザー

森田匡俊

- ・公益社団法人日本都市計画学会社会連携交流組織「避難訓練学の提唱および社会的実装に関する研究委員会」委員

■外部資金獲得状況

横田崇

- ・関谷直也，横田崇・安本信也，「水災害経験の忘却・風化のメカニズムと風化防止策」，2,970,000円，河川情報センター平成27年研究助成金，2015年10月～2015年9月

建部謙治

- ・建部謙治, 「医療福祉施設における震災時の初動体制に関する基礎的研究」, 1,170,000円, 科学研究費補助金, 研究期間2013年4月～2016年3月

小池則満

- ・小池則満, 「地域環境要因を考慮した防災教育へのWeb GIS活用に向けた実践的研究」1,000,000円, 公益財団法人日比科学技術振興財団, 2015年度

奥川雅之

- ・高倉広義・三浦貴彦・半澤雄一・貴島達麻・落合鋭充・家城篤・水野利幸・倉橋奨・正木和明・栗栖正充・奥川雅之, 「モジュラー型オールインワン調査点検システム」, 674,520円, 東京都公募型共同研究開発事業, 2015年10月～2018年9月

赤堀良介

- ・木村一郎・安田浩保・内田賢悦・渡部靖憲・清水康行・赤堀良介, 「洪水リスク時空間的相関性と治水安全度階層性を考慮した流域一体河川計画手法の構築」450,000円, 文部省科学研究費補助金基盤研究 (B), 2013年～2016年
- ・赤堀良介, 「小規模出水期間における河道内微地形の変遷に対する物理的機構に基づく検討」, 500,000円, 日東学術振興財団平成27年度研究助成, 2015年～2017年

小橋勉

- ・小橋勉・小室達明 (金城学院大学)・趙偉 (中部大学), 「合弁経験の知識移転メカニズムの分析」, 基盤研究 (C), 2013～2016年度

岩見麻子

- ・岩見麻子・木村道徳, 「大規模パブリックコメントの意見構造把握と可視化のためのテキストマイニング分析手法の開発」, 730,000円, 公益財団法人 日本生命財団 環境問題研究助成, 2015年10月～2016年9月
- ・岩見麻子, 「複数の流域委員会における議論内容の比較に関する研究」, 350,000円, 公益財団法人 クリタ水・環境科学振興財団 国内研究助成, 2015年10月～2016年9月
- ・熊澤輝一・木村道徳・鎌谷かおる・岩見麻子, 「オントロジーを用いた環境共生への地域ストーリーの共同構築手法の開発」, 1,200,000円, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C), 2015年10月～2018年3月

廣内大助

- ・廣内大助, 「横ずれ共役活断層における連動型地震の再評価」, 1,040,000円, 文部科学省 科学研究費補助金基盤研究 (C), 2013年4月～2016年3月
- ・田中敏・廣内大助, 「教科間連携に基づいた共創型防災教育モデルの開発」, 2,210,000円, 文部科学省 科学研究費補助金基盤研究 (B), 2013年4月～2016年3月
- ・森保宏・廣内大助, 「建物ごとに高精度に表示される地震ハザードマップの構築とその活用に関する研究」,

2,080,000円, 文部科学省 科学研究費補助金基盤研究 (B), 2013年4月~2016年3月

- ・安江健一・廣内大助, 「肉眼観察で確認困難な断層変位基準の定量的把握手法の構築」, 1,560,000円, 文部科学省 科学研究費補助金基盤研究 (C), 2014年4月~2017年3月
- ・廣内大助, 「段丘面の長波長変形に着目した第四紀後期のひずみ速度の解明」, 1,300,000円, 文部科学省 科学研究費補助金新学術領域研究 (研究領域提案型), 2015年4月~2017年3月
- ・石山達也・廣内大助, 「海底活断層の活動性解明のための離水岩石海岸地形の露出年代測定」, 1,300,000円, 文部科学省 科学研究費補助金挑戦的萌芽研究, 2015年4月~2018年3月
- ・矢田部龍一・連携研究者 廣内大助, 「2015年ネパール地震と地震災害に関する総合調査」, 文部科学省科学研究費特別研究促進費, 2015年4月~2016年3月
- ・松多信尚・廣内大助, 「海岸平野の発達過程に基づく南海トラフ巨大地震時の地殻変動の解明」, 700,000円, 公益財団法人国土地理協会研究助成, 2015年4月~2016年3月
- ・廣内大助, 「Web-GISを用いた住民参加型地域防災プラットフォームの構築に関する研究」, 350,000円, 信州大学COC教育補助金, 2015年4月~2016年3月

森田匡俊

- ・森田匡俊, 「マイクロジオデータを用いた災害時帰宅困難者対策ガイドラインに関する研究」, 1,170,000円, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金「若手研究 (B)」, 2013年4月~2016年3月
- ・岡本耕平・森田匡俊, 「外国人散居地域の形成に関する空間分析と孤立度指標の開発」, 780,000円, 日本学術振興会 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金「挑戦的萌芽研究」, 2015年4月~2017年3月

王 欣

- ・源栄正人・大野晋・三辻和弥・萩原由訓・王欣, 「多点リアルタイム地震観測データを用いた地震防災システムの実用化」, 基盤研究 (B), 2014年4月~2017年3月
- ・王欣, 「常時微動観測に基づく超高層ビルの層間損傷定量評価手法の開発と適用性検討」, 若手研究 (B), 2015年4月~2017年3月
- ・王欣, 「スマートデバイスを用いたリアルタイム構造振動計測手法の開発」, 東北大学災害科学国際研究所特定プロジェクト, 拠点B 2015年

安江健一

- ・廣内大助・竹下欣宏・安江健一, 「横ずれ共役活断層における連動型地震の再評価」, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C), 2013年4月~2016年3月
- ・安江健一・松原章浩・廣内大助, 「肉眼観察で確認困難な断層変位基準の定量的把握手法の構築」, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C), 2014年4月~2017年3月

業績リスト

■論文（審査付）

入倉孝次郎

- ・ Satoko Murotani, Shinichi Matsushima, Takashi Azuma, Kojiro Irikura and Sadayuki Kitagawa: Scaling Relations of Source Parameters of Earthquakes Occurring on Inland Crustal Mega-Fault Systems, Pure Appl. Geophys. 172, 1371-1381, 2015.
- ・ 宮腰研・入倉孝次郎・釜江克宏：震動記録を用いた震源インパージョンに基づく国内の内陸地殻内地震の震源パラメータのスケーリング則の再検討, 日本地震工学会論文集, 第15巻, 第7号特集号, pp.141-156 (2015)

建部謙治

- ・ 建部謙治, 鈴木森晶, 宮治眞, 天野寛, 井出政芳, 加藤憲, 杉浦哲矢, 高山恵太：「地震動が高齢者へ及ぼす心理学的・生理学的影響, 姿勢による影響を中心に」, 愛知工業大学研究報告, 第51号B (2016.3)
- ・ 建部謙治, 宮治眞, 田村和夫, 高橋郁夫, 黒見友紀子：「震災時薬の服用者が病院に求めること」, 愛知工業大学研究報告, 第51号B (2016.3)
- ・ 建部謙治：「震災時における病院の初動体制とBCP」, 東海病院管理学研究会年報平成26年度号, pp.67-70 (2015.9)

中村栄治

- ・ 中村栄治・小池則満：個別進路指示による避難訓練の試み, pp169-176, Vol.71 (2015) No.2, 土木学会論文集F6 (安全問題) (2016.1)

小池則満

- ・ 中村栄治・小池則満：個別進路指示による避難訓練の試み, 土木学会論文集F6 (安全問題), Vol.71, No.2, I_169-176 (2016.1)
- ・ 小池則満・服部亜由未・森田匡俊：中山間地における小学校防災教育を通じた防災意識向上に関する実践的研究～岡崎市常磐東小学校校区を事例として～, 土木学会論文集F6 (安全問題), Vol.71, No.2, pp.161-168 (2016.1)
- ・ Susumu Kurahashi, Norimitsu Koike Tsunami-generation warning system using earthquake early warning Journal of Geomate, Vol.9, NO.2, pp.1472-1476, (2015.12)
- ・ Norimitsu Koike, Susumu Kurahashi Evaluation model of medical transport with tsunami early warning system Journal of Geomate, Vol.9, NO.2, pp.1472-1476, (2015.12)

山本義幸

- ・ 山本義幸・安田将康・倉橋 奨・中村栄治：津波防災に関わる集団移転促進への土地利用の重心計算の適用, 応用測量論文集, 26巻, pp.45-53 (2015.6)
- ・ 山本義幸・中村栄治：格子状街区の自動抽出手法の開発, 応用測量論文集, 26巻, pp.87-94 (2015.6)

赤堀良介

- ・ 赤堀良介・川村里実・土田宏一・白井博彰：実河川における流木観測データを用いた流れの空間構造と流木流

下機構の検討, 河川技術論文集, 第21巻, pp.159-164 (2015.6)

服部亜由未

- ・小池則満・服部亜由未・森田匡俊：中山間地における小学校防災教育を通じた防災意識向上に関する実証的研究～岡崎市常磐東小学校区を事例として～, 土木学会論文集F6 (安全問題), Vol.71, No.2, pp.161-168 (2016.1)

岩見麻子

- ・岩見麻子・宮下知己・井手慎司：大規模パブリックコメントの論点把握に対するテキストマイニングの有用性の検討, 土木学会論文集G (環境), Vol.71, No.6, pp. II_13-II_21 (2015.10)
- ・岩見麻子・木村道徳・井手慎司：大規模パブリックコメントの主題に対する態度の把握に関する基礎的研究, 環境情報科学学術研究論文集, No.29, pp.315-320 (2015.12)
- ・木村道徳・熊澤輝一・岩見麻子・松井孝典：地域森林資源活用団体の活動内容と意識の構造的把握－滋賀県高島市の森林資源活用事例を対象に, 環境情報科学学術研究論文集, No.29, pp.55-60 (2015.12)

廣内大助

- ・廣内大助・2014年神城断層地震変動地形研究グループ：2014年長野県北部の地震（神城断層地震）における地表地震断層の出現と新たな問題, 地震工学会誌, 25, 7-12 (2015)
- ・杉戸信彦・廣内大助・塩野敏昭：長野盆地西縁の変動地形と活断層（巡検案内書）, 地質学雑誌（日本地質学会学会誌）121巻7号, 217-232 (2015.7)
- ・廣内大助・松多信尚・杉戸信彦・熊原康博・石黒聡士・金田平太郎・後藤秀昭・楮原京子・中田高・鈴木康弘・渡辺満久・澤祥・宮内崇裕：2014年神城断層地震変動地形調査グループ：糸魚川－静岡構造線北部に出現した2014年長野県北部の地震（神城断層地震）の地表地震断層, 活断層研究, 43号, 149-162 (2015)

森田匡俊

- ・小池則満・服部亜由未・森田匡俊：中山間地における小学校防災教育を通じた防災意識向上に関する実践的研究～岡崎市常磐東小学校区を事例として～, 土木学会論文集F6 (安全問題), Vol.71, No.2, pp.161-168 (2016.1)

王 欣

- ・王欣・正木和明・入倉孝次郎・源栄正人・久田嘉章：常時微動の鉛直アレイ観測に基づく超高層ビルにおける1次元波動伝播解析および層間せん断波速度の抽出, 日本建築学会構造系論文集, 80 (718), pp.1859-1868 (2015.12)

■論文（審査なし，研究報告・紀要集），その他（報告書など）

奥川雅之

- ・奥川雅之・土井智晴・横小路泰義：レスキューロボットコンテストにおけるロボットの設計, 設計工学, Vol.50, No.5, pp.235-241, (2015)
- ・土井智晴・奥川雅之・横小路泰義：レスキューロボットコンテスト 技術を学び 人と語らい 災害につよい世の中をつくる, 建設機械施工, Vol.67, No.3, pp.46-50, (2015)

小橋勉

・論文

小橋勉・許斐ナタリー・藤川なつこ：空港マーケティングに向けての一考察，愛知工業大学研究報告，51号，pp.146-149（2016.3）

・その他（海外レポート）

小橋勉：謝謝、南京。謝謝、東南大学，組織科学，49（3），pp.94-95（2016.3）

服部亜由未

・服部亜由未：学界展望（水産業），人文地理，67（3），pp.235-236（2015.6）

・服部亜由未：馬場家文書「道中日記録」，重要文化財馬場家住宅研究センター報告2015，pp.179-221（2016.3）

廣内大助

・2014年長野県北部の地震に関する調査団（団長山中浩明）（第1章を担当）廣内大助・杉戸信彦・松多信尚・石黒聡士・熊原康博・金田平太郎・後藤秀昭・鈴木康弘・2014年神城断層地震地形調査グループ：地表地震断層の出現と新たな問題，2014年長野県北部の地震に関する調査団報告（地震工学会）1-5（2015.5）

・石山達也・佐藤比呂志・廣内大助・近藤玲介・中山敏雄：断層帯の詳細位置・形状等および断層活動履歴・平均変位速度の解明，立川断層帯における重点的な調査観測平成26年度成果報告書（2015.5）

・石山達也・佐藤比呂志・廣内大助・小林健太・近藤玲介・中山敏雄：断層帯の詳細位置・形状等および断層活動履歴・平均変位速度の解明，立川断層帯における重点的な調査観測平成24-26年度総括報告書（2015.5）

王 欣

・王欣・馬強・司宏俊・党紀・呉浩：中国マグニチュード6.5雲南省昭通地震現地調査報告，東北地域災害科学研究，51，pp.59-64（2015.1）

学会発表・プロシーディングス（プロシーディングスがある場合）**建部謙治**

・鄂芳尊・建部謙治：中国内モンゴル自治区における大人の想起場所に関する研究，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.1101-1102（2015.9）

・建部謙治・宮治眞・天野寛・井出政芳・加藤憲：薄暗闇時での高齢者の地震動体験実験，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.721-722（2015.9）

・鄂芳尊・建部謙治：中国内モンゴル自治区フルンボイル市における子どもの行動的環境について，日本建築学会東海支部研究報告集，第54，pp.513-516（2016.2）

曾我部博之

・菅谷明誉・曾我部博之：修正PSOと山登り法による立体トラス構造物の多段階最適化，学術講演梗概集（関東），pp.317-318（2015.9）

・菅谷明誉・曾我部博之：修正PSOによるトラス構造物の高次元最適化-離散設計変数を用いた最小重量設計，第38回 情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集，pp.141-144（2015.12）

中村栄治

- ・中村栄治・山本義幸：ベースマップと点群密度，SPAR-J，川崎（2015.6）
- ・中村栄治・小池則満・山本義幸：ネットで確認できる3次元防災マップ，G空間EXPO2015，東京（2015.11）

小池則満

- ・原田明日香・小池則満：大規模水害時を想定した避難者配分計画に関する研究，土木学会第70回年次学術講演会CD-ROM，IV042，pp.83-84（2015.9）
- ・戸崎将寛・小池則満：社員教育を目的とする企業防災力検定システムの開発，土木学会第70回年次学術講演会CD-ROM，VI370，pp.739-740（2015.9）
- ・森田匡俊・服部亜由未・江見友作・小池則満・中村栄治：海上目線の防災－海上から陸上への津波避難行動における船舶着岸場所の影響，2016年度日本地理学会春季学術大会，P019（2016.3）
- ・小池則満：避難訓練を通じたインフラ整備計画策定に関する一考察 第26回日本都市計画学会中部支部（2015.11）

奥川雅之

- ・浅井友将・鈴木壮一郎・奥川雅之・半澤雄一・高倉広義：トンネル災害調査ロボットにおける長距離通信システム，日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会講演論文集，1A1-U07（2015.5）
- ・松原秀彦・鈴木壮一郎・浅井友将・奥川雅之・栗栖正充・衣笠哲也：「階段踏破時におけるマニピュレータ姿勢角を考慮した受動適応クローラロボットの重心位置変化」，日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会講演論文集，1A1-U05（2015.5）
- ・渡邊彩夏・鈴木壮一郎・奥川雅之：クローラ型ロボットにおけるサブクローラのコンプライアンス制御に関する考察，日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会講演論文集，1P2-G01（2015.5）
- ・渡邊彩夏・鈴木壮一郎・奥川雅之：クローラ移動ロボットにおけるサブクローラ回転角のコンプライアンス制御，日本機械学会機械力学計測制御部門講演会 Dynamics and Design Conference 2015 講演論文集，Paper No.423（2015.5）
- ・胡乃杰・奥川雅之：適応オブザーバによるスマートワッシャの固有振動数同定精度の検証，日本機械学会第14回評価・診断に関するシンポジウム講演論文集，pp.36-41（2015.11）
- ・鈴木壮一郎・奥川雅之・半澤雄一・倉橋奨・高倉広義：受動適応クローラロボットによる災害調査システム，トンネル災害調査現場検証実験報告，第33回日本ロボット学会学術講演会（RSJ2015）講演概要集，3K1-02（2015.9）
- ・奥川雅之・木村哲也・大金一二・大坪義一・清水優・高橋友一・田所諭：Japan Virtual Robotics Challenge 競技タスクの概要，第33回日本ロボット学会学術講演会（RSJ2015）講演概要集，3K2-08（2015.9）
- ・M. Okugawa, K. Oogane, M. Shimizu, Y. Ohtsubo, T. Kimura, T. Takahashi, and S. Tadokoro, Proposal of Inspection and Rescue Tasks for Tunnel Disasters – Task Development of Japan Virtual Robotics Challenge –, Proceedings of the 13th IEEE International Workshop on Safety, Security and Rescue Robotics, Late Breaking Paper, (2015.10)
- ・竹村秀太・鈴木壮一郎・橋本訓孝・清水優・木村哲也・大金一二・奥川雅之：災害対応ロボットシミュレーション競技用シミュレータの考察：障害走破，計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集（SI2015），pp.774-779（2015.12）

- ・柴田憲・鈴木壮一郎・奥川雅之・木村哲也：災害調査およびインフラ点検を想定したシミュレーション競技における等価タスクの難易度検証, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2015), pp.780-785 (2015.12)
- ・小寺俊介・鈴木壮一郎・浅井友将・松原秀彦・勝玄樹・仲野和也・渡邊彩夏・寺本大晟・奥川雅之：ロボカップジャパンオープン2015における受動適応クローラロボットの走破性評価, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2015), pp.767-771 (2015.12)
- ・浅井友将・鈴木壮一郎・奥川雅之：受動適応クローラロボットのサブクローラ角度における段差踏破性能, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2015), pp.750-755 (2015.12)
- ・渡邊彩夏・鈴木壮一郎・奥川雅之：受動適応クローラロボットにおけるサブクローラダイナミクスのモデリング, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2015), pp.744-749 (2015.12)
- ・鈴木壮一郎・浅井友将・松原秀彦・奥川雅之：受動適応クローラロボットの不整地踏破における角度拘束の影響, 1J1-5, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2015), pp.711-716 (2015)
- ・松原秀彦・鈴木壮一郎・浅井友将・奥川雅之・栗栖正充・衣笠哲也：受動適応クローラロボットの重心位置変化を考慮した段差および階段踏破時におけるマニピュレータ制御, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2015), pp.717-720 (2015.12)
- ・寺田恭祐・奥川雅之・小林義光：単純適応制御を用いた路面変化に対する車輪型移動ロボットの直進性能の改善, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2015), pp.517-522 (2015.12)
- ・西田健人・奥川雅之：クアドロータ推進車輪型移動ロボットのモデリングと姿勢角制御, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2015), pp.502-507 (2015.12)
- ・寺西大・チームSANZOU・大阪府立大学工業高等専門学校 福祉科学研究会・土井智晴・奥川雅之・松本慎平・レスキューロボットコンテスト・シーズ実行委員会：レスキューロボットコンテスト・シーズ・ジャンボリー2015 in KOBEの実施報告, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2015), pp.1642-1646 (2015.12)
- ・岩熊孝幸・白上敬一・川角光毅・森崇大・昌子舜・山重隆祐・渡邊彩夏・奥川雅之・村泰朗：レスキューロボットコンテスト・シーズのための機材開発, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2015), pp.1647-1652 (2015.12)
- ・大坪義一・大金一二・奥川雅之・清水優・木村哲也, レスキューロボットコンテスト実行委員会：災害対応ロボット競技会の持続性を有する運営システムの開発, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2015), pp.1667-1670 (2015.12)
- ・衣笠哲也・岩藤竜飛・宮本直輝・松岡和輝・栗栖正充・奥川雅之・片山雄二・天野久徳・吉田浩治・林良太・土師貴史：柔軟全周囲クローラRT05-COBRAの性能評価, 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2015), pp.2551-2554 (2015.12)

服部亜由未

- ・服部亜由未：新聞記事に見る秋田県と鯉漁業との関わり, 第58回歴史地理学会大会発表資料集, pp.25-28(2015.6)
- ・奥貫圭一・服部亜由未・溝口常俊・森田匡俊・平松晃一：江戸・明治期の町村域GISデータ構築, CSIS DAYS 2015 研究アブストラクト集, p.60 (2015.11)
- ・服部亜由未：馬場家12代当主の旅～『道中日記録』より～, 名古屋大学重要文化財馬場家住宅研究センター 平成27年度研究交流会～馬場家文書が語る歴史～研究報告・意見交換記録, pp.13-24 (2016.2)
- ・森田匡俊・服部亜由未・江見友作・小池則満・中村栄治：「海から目線」の防災一海上から陸上への津波避難

行動における船舶着岸場所の影響―，2016年日本地理学会春季学術大会発表要旨集89, p.264 (2016.3)

岩見麻子

- ・岩見麻子：企業防災組織の活動の継続要因に関する研究，日本計画行政学会 第38回全国大会「縮減社会の持続可能性」研究報告要旨集，pp.261-264 (2015.9)
- ・Asako IWAMI: Text-mining Technique for Identifying Substantive Issues from Large-scale Public Comments, World Engineering Conference and Convention 2015, 20499 (2015.12)
- ・岩見麻子・木村道徳・松井孝典・熊澤輝一：大規模パブリックコメントの意見構造の把握と可視化～「エネルギー・環境に関する選択肢に対する御意見の募集」を事例として～，電子情報通信学会技術研究報告書，pp.25-28 (2016.2)
- ・岩見麻子：地域住民の防災意識の可視化 ―愛知県名古屋南区星崎地区を事例として―，日本計画行政学会・社会情報学会共催 第10回若手研究交流会 予稿集，p.126 (2016.3)

呉 浩

- ・田頭庄三・正木和明・入倉孝次郎・呉浩：高層建築物における鉛直アレイ常時微動測定データを用いた建築物構造劣化の確認方法に関する研究，2015年度日本建築学会大会学術講演梗概集（関東），No.21454

森田匡俊

- ・森田匡俊・服部亜由未・江見友作・小池則満・中村栄治：「海から目線の防災」―海上から陸上への津波避難行動における船舶着岸場所の影響―，2016年日本地理学会春期学術大会，早稲田大学，日本地理学会発表要旨集 89, 264 (2016.3)
- ・奥貫圭一・服部亜由未・溝口常俊・森田匡俊・平松晃一：「江戸・明治期の町村域GISデータ構築」，CSIS DAYS 2015 全国共同利用研究発表大会，東京大学，CSIS DAYS 2015 研究アブストラクト集，60 (2015.11)
- ・清水沙耶香・森田匡俊・岡本耕平：「日本における外国人散居地域の抽出と分布状況の把握」，CSIS DAYS 2015 全国共同利用研究発表大会，東京大学，CSIS DAYS 2015 研究アブストラクト集，44 (2015.11)
- ・森田匡俊・小池則満・岩見麻子・小林哲郎：「小学校における集団避難行動の可視化と改善に関する研究」，第24回地理情報システム学会学術研究発表大会，慶応大学，地理情報システム学会講演論文集 24, E-1-3. (CD-ROM) (2015.10)

王 欣

- ・Xin Wang, Susumu Kurahashi, Hao Wu, Hongjun Si, Ji Dang, Qiang Ma, Guoliang Lin, Kojiro Irikura : WHY BUILDING DAMAGE CONCENTRATED IN LONGTOUSHAN TOWN DURING THE 2014 LUDIAN EARTHQUAKE, YUNNAN, CHINA, Annual Meeting of Japan Association for Earthquake Engineering, 2015, P2-37.
- ・Ashish Shrestha, Ji Dang, Xin Wang, FEASIBILITY OF SMART DEVICES IN STRUCTURAL VIBRATION MEASUREMENT, Annual Meeting of Japan Association for Earthquake Engineering, 2015, P2-35.

安江健一

- ・安江健一・須貝俊彦・徳安佳代子・小松哲也・堀内泰治・清水整・森田泰彦：地質環境長期安定性評価確証技

- 術開発:後背地解析技術に関する研究, 日本地質学会第122年学術大会講演要旨集, p.174 (2015.9)
- ・安江健一・小松哲也・徳安佳代子・田村糸子・堀内泰治: 山地形成過程の把握に必要な後背地解析技術の研究 - 石英の放射線損傷を用いた手法 -, 日本地質学会第122年学術大会講演要旨集, p.303 (2015.9)
 - ・Yasue, K., Hirouchi, D., Saito-Kokubu, Y., Matsubara, A. and Furusawa, A.: Identification of Faulting Events based on Radiocarbon Ages of Continuous Black Soil along Active Fault in Trench Wall, American Geophysical Union 2015 Fall Meeting, T41B-2894, (2015.12)

■学会発表・プロシーディングス（プロシーディングスがない場合）

横田崇

- ・宮岡一樹・横田崇・高木朗充・鬼澤信也: スタッキング法を用いたGNSSデータによる2014年御嶽山噴火前後の地殻変動検出, 日本地球惑星科学連合2015年大会, SVC45-23 (活動的火山), 幕張メッセ (2015.5)
- ・横田崇: 避難の行動意図モデル, 日本災害情報学会17回学会大会, D4-4, 山梨大学 (2015.10)
- ・横田崇・根本信: 2011年東北地方太平洋沖地震の津波断層モデルの再検討, 日本地震学会2015年秋季大会, 神戸国際会議場 (2015.10)

入倉孝次郎

- ・入倉孝次郎・倉橋奨: 「多段階不均質震源モデルに基づく2011年Mw9.0東北地震の強震動の再現」, 日本地球惑星科学連合2015年大会, 幕張メッセ, 2015年5月24日～28日
- ・26th IUGG General Assembly, "Strong ground motions from multi-scale heterogeneous-source model for the mega-thrust subduction earthquakes", Prague Congress Centre, Prague, Czech republic, June 22-July 2, 2015
- ・「2011年Mw9.0東北地震の広帯域強震動の震源モデル」, 日本地震学会2015年度秋季大会, 神戸国際会議場, 2015年10月26日～28日

小橋勉

- ・Kobashi, T., Komuro, T. & W. Zhao: Knowledge Transfer in an International JV: From a Longitudinal Viewpoint, International Conference on Innovation, Management and Industrial Engineering (IMIE 2015) , 於: Renaissance Sapporo Hotel (札幌) (2015.6)
- ・Kobashi, T., Fujikawa, N. & Konomi, N: Tentative Research on High Reliability Organization (HRO) : Through a case of amid-sized airport, International Symposium on Social Sciences and Management (ISSSM 2016) , 於: Fukuoka International Congress Center (福岡) (2016.2)
- ・Kobashi, T., Komuro, T. & W. Zhao: Long-term View of Inter-Organizational Learning (IOL) : Toward a historic analysis of NUMMI, International Conference on Business, Economics, and Information Technology (ICBEIT2016) , 於: Nagoya University (名古屋) (2016.3)

服部亜由未

- ・奥貫圭一・服部亜由未・溝口常俊・森田匡俊・平松晃一: 江戸・明治期の町村域GISデータ構築, 全国共同利用研究発表大会CSIS DAYS 2015, 東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト (2015.11)
- ・服部亜由未: 大正・昭和初期における鯨漁家経営の展開 - 北海道高島郡南家を事例として -, 第63回経営史学会中部ワークショップ, 愛知大学 名古屋キャンパス (2015.7)

廣内大助

- ・ 廣内大助：防災研究と自然地理学－地震災害研究における変動地形学の役割と貢献，人文地理学会第282回例会，神戸山手大学（2015.4）【招待講演】
- ・ 廣内大助・杉戸信彦・松多信尚・石黒聡士・熊原康博・金田平太郎・後藤秀昭・鈴木康弘・2014年神城断層地震地形調査グループ：2014年長野県北部の地震（神城断層地震）における地表地震断層と提起する新たな問題，地震工学会2014年長野県北部の地震調査団報告会，東京大学地震研究所（2015.5.15）
- ・ 廣内大助・杉戸信彦・金田平太郎・後藤秀昭・松多信尚・鈴木康弘・石黒聡士・熊原康博・2014年神城断層地震地形調査グループ：141. 2014年長野県北部の地震（神城断層地震）に伴う地表地震断層と活断層，地球惑星科学連合，幕張メッセ（2015.5.27）
- ・ 石黒聡士・熊原康博・中田高・後藤秀昭・渡辺満久・宮内崇裕・楮原京子・杉戸信彦・松多信尚・廣内大助・2014年神城断層地震地形調査グループ：UAVによる低空写真撮影にもとづく2014年長野県北部の地震に伴う地表地震断層の変位量計測，地球惑星科学連合，幕張メッセ（2015.5.27）
- ・ 清水龍来・廣内大助：河成段丘面の長波長変形に基づく断層構造を考慮した地形発達の解明－高田平野東縁および越後平野東縁地域の事例－，地球惑星科学連合，幕張メッセ（2015.5.27）
- ・ 鈴木康弘・2014年神城断層地震地形調査グループ（廣内大助ほか）：2014年長野県神城断層地震と活断層－何を学ぶべきか？，地球惑星科学連合，幕張メッセ（2015.5.28）
- ・ 廣内大助：糸魚川－静岡構造線活断層帯において発生した2014年長野県北部の地震にみられる諸課題，日本地質学会，信州大学（2015.9.13）【招待講演】
- ・ Hiroyuki.Muramatsu, Hideaki.Shimada, Satoshi.Tanaka,Daisuke.Hirouchi,Mitsunori.Yatsuka and Takashi.Mizuguchi : Development of Disaster Prevention Educational Database on The Basis of The Disaster Prevention Education Goals Taxonomy, ICITE for SD-2015, nagoya（2015.11）
- ・ 熊原康博・石山達也・廣内大助・松多信尚・Deepak Chamlagain：ネパール南部，Chitwan DunからHetauda Dun間の活断層の分布とその変異様式，日本活断層学会，岡山大学（2015.11）
- ・ YASUE, Ken-ichi, HIROUCHI, Daisuke, SAITO-KOKUBU, Yoko, MATSUBARA, Akihiro, FURUSAWA, Akira : Identification of Faulting Events based on Radiocarbon Ages of Continuous Black Soil along Active Fault in Trench Wall, AGU, Fall Meeting, California USA（2015.12）
- ・ 松多信尚・杉戸信彦・廣内大助・池田一貴・澤 祥・渡辺満久・鈴木康弘：2014年神城断層地震で出現した地震断層のトレンチ調査，日本地理学会春季学術大会，早稲田大学（2016.3）
- ・ 廣内大助：子どもが作る防災マップ，平成27年度信州大学防災・減災シンポジウム（2015.6.28）
- ・ 廣内大助：子どもが作る防災マップ，第2回信州大学防災市民シンポジウム「安心・安全の街をつくる～しなやかで美しい郷土のために」（2016.3.5）

倉橋奨

- ・ 倉橋奨・入倉孝次郎・王欣・司宏俊・馬強・呉浩：2014年中国雲南省昭通地震（M6.5）における建物被害と強震動特性の関係—その2：大加速度の生成メカニズム，日本地球惑星科学連合2015年大会，SSS25-02，幕張メッセ（千葉市）（2015.5）
- ・ 倉橋奨・入倉孝次郎・王欣・司宏俊・馬強・呉浩：2014年中国雲南省昭通地震（M6.5）における建物被害と強震動特性の関係その2：龍頭山観測点における大加速度の生成メカニズム，日本地震学会2015年度秋季大会，S15-11，神戸国際会議場（神戸市）（2015.10）

呉 浩

- ・王欣・馬強・司宏俊・党紀・呉浩・倉橋奨：2014年中国雲南省昭通地震（M6.5）における建物被害と強震動特性の関係—その1：現地調査報告および建物被害分析，日本地球惑星科学連合大会，千葉幕張メッセ国際会議場（2015.5）
- ・倉橋奨・入倉孝次郎・王欣・司宏俊・馬強・呉浩：2014年中国雲南省昭通地震（Ms6.5）における建物被害と強震動特性の関係—その2：中国雲南昭通地震における大加速度の生成メカニズム，日本地球惑星科学連合大会，千葉幕張メッセ国際会議場（2015.5）
- ・呉浩・王欣・司宏俊・党紀・馬強・林国良・入倉孝次郎・倉橋奨：2014年中国雲南省昭通地震（Ms6.5）における建物被害と強震動特性の関係—その3：龍頭山強震点周辺建物被害要因及び地盤震動特性，日本地球惑星科学連合大会，千葉幕張メッセ国際会議場（2015.5）
- ・呉浩・正木和明・入倉孝次郎：高層ビルの減衰特性の抽出のための逆重畳法を用いた地震波干渉法の応用，日本地球惑星科学連合大会，千葉幕張メッセ国際会議場（2015.5）
- ・王欣・馬強・司宏俊・党紀・呉浩・倉橋奨・入倉孝次郎：2014年中国雲南省昭通地震（M6.5）における建物被害と強震動特性の関係—その1：現地調査報告および建物被害分析，日本地震学会講演予稿集（2015年度秋季大会）S15-10，神戸国際会議場（2015.10）
- ・倉橋奨・入倉孝次郎・王欣・司宏俊・馬強・呉浩：2014年中国雲南省昭通地震（Ms6.5）における建物被害と強震動特性の関係—その2：龍頭山観測点における大加速度の生成メカニズム，日本地震学会講演予稿集S15-11（2015年度秋季大会），神戸国際会議場（2015.10）
- ・呉浩・王欣・倉橋奨・入倉孝次郎・司宏俊・党紀・馬強・林国良：2014年中国雲南省昭通地震（Ms6.5）における建物被害と強震動特性の関係—その3：被害が集中した強震観測点周辺の地盤特性，日本地震学会講演予稿集（2015年度秋季大会）S15-12，神戸国際会議場（2015.10）

森田匡俊

- ・森田匡俊・服部亜由未・小池則満・中村栄治：GPSデータを用いた海水浴場における津波避難誘導の分析，2015年度（第70回）立正地理学会研究発表大会，立正大学（2015.6）
- ・倉橋奨・入倉孝次郎・王欣・司宏俊・馬強・呉浩：2014年中国雲南省昭通地震（M6.5）における建物被害と強震動特性の関係—その2：大加速度の生成メカニズム，日本地球惑星科学連合2015年大会，SSS25-02，幕張メッセ（千葉市）（2016.5）
- ・倉橋奨・入倉孝次郎・王欣・司宏俊・馬強・呉浩：2014年中国雲南省昭通地震（M6.5）における建物被害と強震動特性の関係—その2：龍頭山観測点における大加速度の生成メカニズム，日本地球惑星科学連合2015年大会，S15-11，神戸国際会議場（神戸市）（2016.10）

王 欣

- ・Wang Xin, Masaki Kazuaki, Irikura Kojiro, Motosaka Masato, and Hisada Yoshiaki: The Feasibility Examination of Extracting Story-by-story Shear-wave Velocity From Microtremor Records of High-rise Buildings, 2015 SSA Annual Meeting, 15-257, Pasadena, California (2015.4)
- ・Ji Dang, Xin Wang, Ashish Shrestha, and Yusuke Kikuchi: Low Price Seismic and Structural Response Measurement Method Using Smart Devices, 2015 SSA Annual Meeting, 15-256, Pasadena, California (2015.4)
- ・王欣・馬強・司宏俊・党紀・呉浩・倉橋奨：2014年中国雲南省昭通地震（M6.5）における建物被害と強震動

- 特性の関係—その1：現地調査報告および建物被害分析，地球惑星連合大会2015, 01751, 幕張メッセ（2015.5）
- ・倉橋奨・入倉孝次郎・王欣・司宏俊・馬強・呉浩：M6.5中国雲南省昭通地震における建物被害と強震動特性の関係—その2：中国雲南昭通地震における大加速度の生成メカニズム，地球惑星連合大会2015, 03398, 幕張メッセ（2015.5）
 - ・呉浩・王欣・司宏俊・党紀・馬強・林国良・入倉孝次郎・倉橋奨：2014年中国雲南省昭通地震（Ms6.5）における建物被害と強震動特性の関係—その3：龍頭山強震点周辺建物被害要因及び地盤震動特性，地球惑星連合大会2015, 02259, 幕張メッセ（2015.5）
 - ・党紀・菊池友介・Ashish SHRESTHA・王欣：スマートデバイスを用いた構造の地震応答計測のための性能確認実験，第18回性能に基づく橋梁等の耐震設計に関するシンポジウム，18 233-240（2015.7）
 - ・王欣・正木和明・入倉孝次郎・源栄正人・久田嘉章：常時微動記録から超高層ビルの層間せん断波伝播速度の抽出，日本建築学会大会，21478, pp.955-956, 神戸（2015.8）
 - ・王欣・馬強・司宏俊・党紀・呉浩・倉橋奨・入倉孝次郎：2014年中国雲南省昭通地震（Ms6.5）における建物被害と強震動特性の関係—その1：現地調査報告および建物被害分析，日本地震学会講演予稿集，2015年度秋季大会，S15-10.PP.85（2015.11）
 - ・倉橋奨・入倉孝次郎・王欣・司宏俊・馬強・呉浩：2014年中国雲南省昭通地震（Ms6.5）における建物被害と強震動特性の関係—その2：龍頭山観測点における大加速度の生成メカニズム，日本地震学会講演予稿集，2015年度秋季大会，S15-11.PP.8510.PP.85（2015.11）
 - ・呉浩・王欣・倉橋奨・入倉孝次郎・司宏俊・党紀・馬強・林国良：2014年中国雲南省昭通地震（Ms6.5）における建物被害と強震動特性の関係—その3：被害が集中した強震観測点周辺の地盤特性，日本地震学会講演予稿集，2015年度秋季大会，S15-12.PP.8610.PP.85（2015.11）
 - ・王欣・入倉孝次郎・正木和明・久田嘉章・源栄正人：常時微動の鉛直アレイ観測に基づく超高層ビルにおけるせん断波伝播の解析，日本地震学会講演予稿集，2015年度秋季大会，S19-P07.PP.24610.PP.85（2015.11）
 - ・畠山智貴・源栄正人・大野晋・王欣：実存検知の振動特性の長期モニタリング，平成27年度東北地域自然災害科学研究集会（2016.1）

■ 著書

横田崇

- ・編集委員長（中村功）編集委員（岩田幸二，加藤孝明，木村拓郎，黒田洋司，首藤由紀，鈴木敏正，関谷直也，田中淳，谷原和憲，秦康範，干川剛史，三島和子，村中明，矢守克也，横田崇）：災害情報学事典，朝倉書店（2016.3）

奥川雅之

- ・奥川雅之監修：特集 世界で進む災害対応ロボットの競技会，ロボコンマガジン，No.102, pp.6-18, (2015)
- ・奥川雅之・衣笠哲也：DIYレスキューロボットのすすめ - 遠隔操作型調査ロボットの技術を作りながら学ぶ - 第1回レスキューロボットに必要な技術，ロボコンマガジン，No.104, pp.90-93 (2016)

森田匡俊

- ・森田匡俊：観光地での防災とは何か—愛知県知多郡南知多町千鳥ヶ浜海水浴場，伊藤徹哉・鈴木重雄・立正大学地理学教室編 2015.『地理を学ぼう 地理エクスカーショーン』，朝倉書店，pp.41-46（2015）